

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																							
読売理工医療福祉専門学校	昭和51年6月1日	水落清治	〒112-0002 東京都文京区小石川 1-1-1 (電話) 03-3686-0411																																							
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																							
学校法人読売理工学院	昭和45年1月31日	松井 敏宏	〒112-0002 東京都文京区小石川 1-1-1 (電話) 03-3686-0411																																							
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																																					
医療	医療専門課程	臨床工学専攻科		平成19年文部科学省 告示第21号																																						
学科の目的	臨床工学技士養成校として厚生労働省が指定する科目に沿って、医療技術や必修科目を取得し国家試験合格を教育目標とすることに加え、医療従事者としてふさわしい人材を育成することを目的とする。																																									
認定年月日	平成26年3月31日																																									
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																																			
2年	昼間	2015時間	1535時間	0時間	480時間	0時間	0時間																																			
単位時間																																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																					
20人	9人	0人	5人	23人	28人																																					
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、出席、実習レポート課題等の総合評価																																					
長期休み	■学年始め: 4月1日～7日 ■夏季: 8月1日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月7日 ■学年末: 3月21日～31日			卒業・進級条件	進級: 各学年の必修科目を全て取得 卒業: 必修科目81単位を全て取得																																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ■長期欠席者への指導等の対応 電話連絡、個人面談			課外活動	■課外活動の種類 サークル活動、ボランティア、学園祭実行委員 ■サークル活動: 有																																					
就職等の状況	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) 病院、医療メーカー ■就職指導内容 個人面談、模擬面接 <table border="1"> <tr> <td>■卒業生数</td> <td>13</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職希望者数</td> <td>12</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職者数</td> <td>11</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>■就職率</td> <td>91.7</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>■卒業者に占める就職者の割合</td> <td>92.3</td> <td>%</td> </tr> </table> ■その他 ・その他: 1人 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)			■卒業生数	13	人	■就職希望者数	12	人	■就職者数	11	人	■就職率	91.7	%	■卒業者に占める就職者の割合	92.3	%	主な学修成果 (資格・検定等)	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床工学技士 国家資格</td> <td>②</td> <td>9人</td> <td>9人</td> </tr> <tr> <td>ME1種検定</td> <td>③</td> <td>0人</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>ME2種検定</td> <td>③</td> <td>17人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種+L33:Q57別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等			資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	臨床工学技士 国家資格	②	9人	9人	ME1種検定	③	0人	0人	ME2種検定	③	17人	11人				
■卒業生数	13	人																																								
■就職希望者数	12	人																																								
■就職者数	11	人																																								
■就職率	91.7	%																																								
■卒業者に占める就職者の割合	92.3	%																																								
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																							
臨床工学技士 国家資格	②	9人	9人																																							
ME1種検定	③	0人	0人																																							
ME2種検定	③	17人	11人																																							
中途退学の現状	■中途退学者 0名 令和4年4月1日時点において、在学者22名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者22名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由			■中退率	0%																																					
■中退防止・中退者支援のための取組 各科目ごとの補習 クラス担任による指導 スクールカウンセラーによる学生カウンセリング 奨学金活用・授業料の延納分納対応																																										

<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度： 有</p> <p>①学費支援制度(新入生対象) 経済的な事情で進学を諦めなければならない状況にある、勉学意欲があり本校への入学を強く希望している方で、世帯年収の目安が500万円以下の方を対象に選考し入学時納付金の一部を免除する制度。</p> <p>②小林與三次記念育英奨学金制度(二種類のコース) 特待コース:勉学に意欲があり学業の優秀な在校生を対象に、年間授業料を全額免除。 一般コース:経済的な事情で修学が困難な状況にある、勉学意欲があり学業の優秀な在校生を対象に、授業料を一部免除。</p> <p>③留学生対象推薦入学学費減免制度 私費留学生が出願時に日本語学校の推薦を受けている場合に入学時納付金の一部を減免する制度</p> <p>④留学生特別奨学金制度 出席状況が優良な私費留学生に対して奨学金を支給する制度</p> <p>■専門実践教育訓練給付： 非給付対象</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価： 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)</p>
<p>当該学科のホームページURL</p>	<p>http://www.yomiuririkou.ac.jp/course/clinical ss/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

臨床工学科は臨床工学技士の養成課程であり、病院での臨床実習が180時間、厚労省より義務付けられている。実習病院としては、大学病院、総合病院などであり、最先端の医療現場での実習を行っている。
また、学内の生体機能代行装置、医療機器に関する講義、実習に関しても病院の技士長クラスの臨床工学技士を非常勤講師として招聘し、常に最先端の技術を教育に反映させている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

校長の下に教育課程編成委員会を置き、校長を委員長として業界団体や有識者、企業関係者の外部委員と当該学科の学科長ならびに事務局長を委員として選出し、年に2回以上開催し、学科の教科構成や実習・演習の内容はもちろん教員研修等について、外部委員の意見をもとに当該学科の実践的な職業教育の実施に向け、必要なカリキュラムの改善案を教務で検討し校長に報告、カリキュラムに反映させる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
中尾 教伸	日本医療科学大学 保健医療学部 臨床工学科 教授	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	②
伊藤 大輔	伊奈病院 医療技術部 臨床工学科 係長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	③
神原 晃	苑田第一病院 臨床工学科 主任	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	③
水落 清治	読売理工医療福祉専門学校 校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	
沢田 雄太	読売理工医療福祉専門学校 臨床工学系学科 学科長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、11月)

(開催日時(実績))

令和4年度 第2回 令和4年11月11日 19:00～20:00

令和5年度 第1回 令和5年7月11日 19:00～20:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

新カリキュラム変更について

・【内視鏡用ビデオカメラ保持に係るシミュレータ】は告示研修に使用されるものを購入した方が良いか?購入時期は?

⇒基本的には、告示研修で使用されるものを購入した方が良いのではないかと。

【内視鏡用ビデオカメラ保持に係るシミュレータ】というものがそもそも存在していない?

購入時期は2024年度に間に合えば良いのではないかと。(2023年の購入でOK?)

・臨床実習の単位数の変更と学内実習についてはどのような対応を考えておけば良いか?

⇒臨床実習の内、病院に依頼をする時間数は現行の180時間と変更の無いように1単位当たり30時間でカリキュラムを作成すれば良いのではないかと。

臨床実習発表は個人単位/病院単位で実施させても良いのではないかと。(現状は数病院をピックアップして発表)

・新カリキュラム切り替え時の留年生についての懸念事項

1年次留年:新カリキュラム変更のタイミングでの留年の場合は【再入学】という手段をとれないか。

2,3年次留年:科目が無くなる場合には、振替科目を決めておくこと。その場合は、単位数が一致するように注意する。

・新科目について

【臨床支援技術学】:授業時間内に実習を組み込んでも良いのではないかと。

【チーム医療概論】:ある症例に対するディスカッションの実施などを検討しても良いのではないかと。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等の人材ニーズを活かしつつ、医療業界の現場で必要となる実践的かつ専門的な能力を育成するため、実習・演習等の授業において、企業等との組織的な連携を通じ、最新の技術動向が反映された技術・技能を教育する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実習・演習等において、授業内容や方法、成績評価について、企業等と連携する。臨床実習については実習ガイドブックを作成し、その内容に基づいた実習内容、実習評価について、綿密な打ち合わせを行う。

また、機器実習として、医療機器メーカーの講義・実習を行い、最新医療機器に実際触れながら学べるよう連携する。

「連携企業等」

1. 東京都済生会中央病院
2. 日本医科大学附属病院
3. 池上総合病院
4. 東京女子医科大学病院
5. 板橋中央総合病院

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習	臨床工学技士の行う主な業務について見学を中心にして、実際的な知識を身につける。	東京都済生会中央病院 日本医科大学附属病院 他
生体機能代行技術学実習	呼吸・循環・代謝に関係ある生体機能代行装置の適切な操作と保守点検ができるように生体機能代行装置の基本知識と技術について実習をする。	日産厚生会玉川病院 東大和病院 葛西昌医会病院
医用治療機器学実習	医用機器の適切な操作と保守ができるよう、医用治療機器の基本事項を実習を通じて理解する。	日本光電工業株式会社 日本メトロニック株式会社
生体計測装置学実習	生体計測装置の適切な操作と保守ができるよう、その基本事項について実習をする。	日本光電工業株式会社 日本メトロニック株式会社
医用機器安全管理学実習	医用機器の臨床応用を高い安全性及び信頼性をえて行えるよう、安全管理に関する基礎事項について実習をする。	日本光電工業株式会社 日本メトロニック株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

教員として所属学科の実践的な職業教育を行うために、知識と技術に関する情報は、教職員自らが自己研鑽に務めることが重要であり、自らが研修・研究等の実施を希望する場合においても、校長判断によりこれを認めているが、学校としては教員研修に関する規定を定め、連携を取る業界・企業・団体と連携ならびに教育課程編成委員会の意見を参考に校内外での研修を進めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

・第32回 日本臨床工学会

日 時: 令和4年5月14日、15日

場 所: つくば国際会議場

主 催: 日本臨床工学技士会

参加者: 専任教員2名

内 容: 『時代に輝く臨床工学技士をめざして～Looking at the world: 世界を見据えて～』

教科との関連: 臨床工学分野全般の教科にて学会の内容をフィードバックできる。

・日本臨床工学技士教育施設協議会 令和4年度定時社員総会 第37回教員研修会

日 時: 令和4年6月11日、12日

場 所: ホテルグランピア和歌山

主 催: 日本臨床工学技士教育施設協議会

参加者: 専任教員1名

内 容: 『臨床工学技士養成施設における新カリキュラムの概要』

教科との関連: 臨床工学分野全般の教科にて学会の内容をフィードバックできる。

・第67回 日本透析医学会学術集会・総会

日 時: 令和4年7月1日～3日

場 所: パシフィコ横浜

主 催: 日本透析医学会

参加者: 専任教員4名

内 容: 『透析医療のSDGsを求めて』

教科との関連: 血液浄化分野を中心に臨床工学分野全般の教科にて学会の内容をフィードバックできる。

・第8回臨床工学技士養成教員学術研究会

日 時: 令和4年9月25日

場 所: TKPガーデンシティPREMIUM 大阪駅前(オンライン)

主 催: 日本臨床工学技士教育施設協議会

参加者: 専任教員2名

内 容: 「臨床工学技士教育を考える」～臨床工学技士法および指定規則改正とその対応～

教科との関連: 臨床工学分野全般の教科にて学会の内容をフィードバックできる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

日 時: 令和4年8月30日

タイトル: アクティブラーニング研修

場 所: 東京都私学財団

研修内容: アクティブラーニング研修

教科との関連: 分野全般での指導方法に活用

日 時: 令和4年9月28日

タイトル: 医療介護業界で働く学生のためのメンタルヘルス指導法

場 所: オンライン(FCAエデュケーション)

研修内容: メンタルヘルス指導法

教科との関連: 分野全般での指導方法に活用

日 時: 令和5年3月10日

タイトル: 「LGBTQについて」(スクールカウンセラー 半田 茂 先)

内容: LGBTはいないのではなく周囲に言えない、「Q」とは何か、性的マイノリティとLGBTQの違い、性同一性障害とトランスジェンダーの違い、といった基本的な理解を統計等の資料を基に促し、どのような言葉や態度が相手を傷つけてしまうのか、多様性を尊重した世の中とはどのような社会なのか等の話があった。

日 時: 令和5年3月24日

タイトル: 令和4年度学生カウンセリング研修会

場 所: オンライン(東京都専修学校各種学校協会)

研修内容: 『教職員の面談力 -Z世代の学生と関係する力 Part2-』

教科との関連: 分野全般での指導方法に活用

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

・日本医工学治療学会 第39回学術大会

日 時: 令和5年5月12日～14日

場 所: 川越プリンスホテル

主 催: 日本医工学治療学会

参加者: 専任教員1名

内 容: リフレーミング～多角的な視点から医工学治療を考える～

教科との関連: 臨床工学分野全般の教科にて学会の内容をフィードバックできる。

・日本臨床工学技士教育施設協議会 令和5年度定時社員総会 第38回教員研修会

日 時: 令和5年6月3日、4日

場 所: 札幌パークホテル

主 催: 日本臨床工学技士教育施設協議会

参加者: 専任教員1名

内 容: 「ICTツールの活用～オンライン授業の先へ～」ほか

教科との関連: 臨床工学分野全般の教科にて学会の内容をフィードバックできる。

・第30回 東京都臨床工学技士会

日 時: 令和5年6月25日

場 所: 大田区産業プラザPio

主 催: 東京都臨床工学技士会

参加者: 専任教員2名

内 容: 30th Anniversary いのちのエンジニア TOKYO ～臨床工学技士への誇り～

教科との関連: 臨床工学分野全般の教科にて学会の内容をフィードバックできる。

・第33回 日本臨床工学会

日 時: 令和5年7月21日～23日

場 所: 広島国際会議場

主 催: 日本臨床工学技士会

参加者: 専任教員1名

内 容: Peace for Innovation ～peace:無事 安心への新たな展望～

教科との関連: 臨床工学分野全般の教科にて学会の内容をフィードバックできる。

② 指導力の修得・向上のための研修等

日 時: 令和6年2月中旬

タイトル: 未定

場 所: 読売理工医療福祉専門学校

研修内容: 検討中

教科との関連: 分野全般での指導方法に活用

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、臨床工学系学科の関連業界、卒業生、保護者など学校と密接に関係する者の理解促進と継続した連携協力体制の確保により、学校運営・教育内容の改善を図るため「学校関係者評価委員会」を設置し、当委員会の意見を学校運営等の改善に活用するとともに結果を公表する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念、目的、育成人材像、特色
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、意思決定機能
(3)教育活動	教育目標、教育課程、成績評価基準、資格取得の指導体制、授業評価
(4)学修成果	就職率、資格取得、退学率、卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職指導、学生相談、健康管理、課外授業、保護者との連携
(6)教育環境	施設・設備の整備、インターンシップ、海外研修、防災体制
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)法令等の遵守	法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10)社会貢献・地域貢献	教育資源・施設の活用、学生ボランティア活動、公開講座・教育訓練の実施
(11)国際交流	海外研修、留学生の受入れ・在籍管理・就職指導

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会の意見をもとに、目標とすべきテーマを掲げ、校長や各学科で目標に向けて取り組み、達成状況に対する意見を委員会でいただき、改善すべきところを改善している。例えば新型コロナウイルス感染症対策をについてや、除籍退者を減らすことなど目標としている。他に卒業生との連絡状況や、地域住民と学校行事との連携強化など、今後の課題も見えてきている。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
渡部 俊一	読売理工専校友会 会長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	卒業生委員
本田 章良	臨床工学科在学生 保護者	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	保護者委員
杉田 明治	文京区礪川地区町会連合会 会長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	地域委員
羽場 宏祐	(株)インターナショナルクリエイティブ 最高顧問	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業委員
鹿毛 信一	河端建設(株) 工事部部长	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業委員
小嶋 守	小嶋電工株式会社 専務取締役	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業委員
伊藤 大輔	医療法人社団 愛友会 伊奈病院 医療技術 部 臨床工学科 係長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業委員
大庭 尚子	港区東部在宅医療相談窓口	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業委員
中村 孝之	公益財団法人 日本建築衛生管理教育セン ター 業務部教務課 技術主幹	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業委員
水落 清治	読売理工医療福祉専門学校 校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	学校委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(○ホームページ) 公表時期 9月上旬 1月下旬

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本校の全般について理解を深めるとともに、連携および協力の推進に資するため、本校の基本的情報を含めた必要な情報を分かり易い形で、ホームページを通じて恒常的に提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の育成人材像、特色、沿革
(2)各学科等の教育	定員、入学者数、在籍者数、教育課程、進級、卒業要件、目標資格
(3)教職員	教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、就職支援、インターンシップ
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、クラブ活動
(6)学生の生活支援	学生相談室、留学生相談室
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金、奨学金制度
(8)学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9)学校評価	自己評価・学校関係者評価
(10)国際連携の状況	海外研修派遣制度
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL:<http://www.yomiuririkou.ac.jp>

授業科目等の概要

(医療専門課程 臨床工学専攻科) 令和5年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			公衆衛生学	健康の保持、予防医学の重要性を認識させ、公衆衛生の分野について学ぶ。疾病、人工動態、生活環境、公害、食品衛生、社会福祉と社会保障など。	2前	30	1	○			○		○	
2	○			臨床生理学	酸塩基平衡や呼吸機能、心電図など生理学を理解し、疾病や生理機能の関連および検査方法について学習する。	2前	30	1	○			○		○	
3	○			臨床免疫学	人体の免疫血清学および各種免疫の概要、輸血検査などについて学習する。	2後	30	1	○			○		○	
4	○			臨床薬理学	臨床で使用される薬剤の作用機序、適応などを中心に学習する。 1. 呼吸器系薬剤 2. 循環器系薬剤 3. 利尿剤 4. 脳神経系薬剤 5. 抗生剤	2前	30	1	○			○		○	
5	○			看護学	患者に接するにあたって要求される基本的態度や考え方を学ぶ。 1. 看護の本質と基礎 2. 患者への対応 3. 患者の心理	2前	30	1	○		△	○		○	
6	○			応用数学	臨床工学に必要な数学の基礎について学ぶ。代数学、微分積分学、微分方程式、フーリエ級数とフーリエ変換、確率統計学、その他。	2通	60	3	○	△		○		○	
7	○			機械工学	臨床工学に必要な機械工学の基礎について学習する。1. 機械力学 2. 生体の運動 3. 流体の法則 4. 振動と超音波 5. 熱力学と機械	2前	40	2	○			○		○	
8	○			放射線工学概論	放射線の基本知識から生体への影響、医学や医療への応用や安全管理、その他について学習する。	2前	30	1	○			○		○	
9	○			システム工学	臨床工学に必要なシステム理論、信号理論、制御理論の基礎について学習する。1. インパルス応答と伝達関数 2. スペクトル 3. 雑音 4. 相関関数 5. フィードバック	2後	30	2	○			○		○	
10	○			システム・情報処理実習	実習を通してシステム工学および情報処理工学の理解を深める。1. 波形とスペクトル 2. システム応答のシュミレーション 3. フィードバック制御 4. プログラミング	2後	30	1			○	○		○	
11	○			生体機能代行技術学実習	呼吸・循環・代謝に関係ある生体機能代行装置の適切な操作と保守点検ができるように基本的知識と技術について実習を行う。	2前	90	3			○	○		○	○

12	○		物性工学	工学的な観点から生体の特性について学ぶ。1. 臨床工学と生体物性 2. 生体の構造と特性 3. 電気特性 4. 電気安全 5. 生体の変形と流動 6. 振動や超音波特性	2前	40	2	○				○			○
13	○		材料工学	生体特性と人工材料について学ぶ。1. 材料工学と生体 2. 臨床工学と材料工学 3. 人工材料の生体適合性 4. 金属材料 5. 高分子材料	2前	40	2	○				○			○
14	○		関係法規	臨床工学技士として必要な法令について学習する。1. 医事法 2. 臨床工学技士法 3. 関連法規 4. 医療過誤 5. その他	2前	30	2	○				○			○
15	○		外科学	臨床工学技士業務に必要な臨床医学的知識（外科学）について幅広く学習する。	2前	60	2	○				○			○
16	○		救急救命医学	臨床工学技士業務に必要な臨床医学的知識（救急救命医学）について幅広く学習する。	2前	60	2	○				○			○
17	○		臨床実習	臨床工学技士業務について病院で見学を中心に実際的な知識を身に付ける。1. 血液浄化装置実習 2. 集中治療室実習 3. 手術室実習 4. 医療機器管理業務実習	2後	180	4				○		○		○ ○
18	○		臨床工学特別講義	臨床工学における現状や問題点などについて考える。	2通	60	2	○				○		○	○
合計						18科目		900単位時間(33単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業条件：必修科目全ての81単位（2015時限）を修得すること。 履修方法：臨床実習は「血液浄化装置実習」、「集中治療室実習」、「手術室実習」、「医療機器管理業務実習」の4科目全てを修得した場合のみ単位を与える。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	20週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。